

令和 7 年 3 月 25 日

令和 6 年度 施設関係者評価報告書

学校法人鷺森学園は教育・保育目標や計画等をはじめとする園運営について自己点検・自己評価を実施し、「令和 6 年度施設関係者評価報告書」を作成し、当園のホームページに公表いたしました。

また「施設関係者評価委員会」を設置し、当園に関連する保護者・卒園生の方々や教育関係者の皆様より当園の幼児教育及び運営に対し、ご意見ご指導を賜りました。頂戴いたしましたご意見につきましては「令和 6 年度施設関係者評価報告書」としてご報告させていただきます。

今後は頂きましたご意見等をさらなる教育・保育に生かし、さらに認定こども園ひのまる幼稚園が向上していけるよう職員一同努力いたします。

関係者の皆様には今後とも尚一層のご支援、ご指導を賜ります様よろしく
お願いいたします。

学校法人鷺森学園
認定こども園
ひのまる幼稚園
園長 吉藤 克子

令和6年度 自己評価・施設関係者評価シート

学校法人鷺森学園

認定こども園ひのまる幼稚園

1. 園の教育目標

本園は、「まっすぐに たかく おおきく うつくしく」 を教育方針として掲げ、

- ・ 節度ある子を育てよう
- ・ 思いやりのある子を育てよう
- ・ 考える子を育てよう

の3点を保育指針として挙げている。0歳から就学前までの期間を、子どもたち一人ひとりがこれからの多種多様な社会・文化の中で生きていくための基礎を培っていけるよう手助けを行います。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

年間指導計画をもとに、教職員がその内容を確認しながら共通理解を図り、一人ひとりの幼児を大切にしたい質の高い保育・教育の実践を目指す。

季節の遊びや行事など園児のすこやかな成長を手助けするための活動を取り入れ行う。

異年齢での活動を通し相手を思いやる気持ちや一緒に何かを成し遂げる力を養う。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組内容	自己評価	評価
教育保育課程	<ul style="list-style-type: none">・ 認定こども園の状況を踏まえた教育目標・重点目標の設定・ 年間の指導計画や週案の作成・ 教員間の協力的な指導状況・ 各クラスの運営の成果と課題・ 異年齢活動（なかよしグループ）	本園の保育目標を全職員で共有し、年間の指導計画・週案の作成に力を入れた。昨年度やったことを踏襲することが多く、新しい取り組みなどにチャレンジすることが少なかったように思える。来年度は新しいアイデアなどをさらに取り入れていきたい。	B
研修 (資質向上 の取組)	<ul style="list-style-type: none">・ 教育の質の向上を図る・ 園内研修・ 園外研修	園内研修は毎月の職員間での研修に加え、西蒲消防署員をお招きして人形を使った救命救急の仕方やAEDの使い方を教えていただいた。初めてAEDに触れる若い職員はもちろん、何度か研修している職員も改めて手順等を確認し有事に対しての気持ちを高めた。 園外研修では、今年度もZoomでの研修が主流だった。会場までの移動時間等がかからず、時間を有意義に使えることと県外の研修にも参加できるため、大変良かった。	A

評価項目	取組内容	自己評価	評価
教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備の安全、維持管理のための整備 ・遊具・用具・図書の整備 ・季節の草花・野菜を植える (チューリップ) 	<p>毎朝、早番が園庭や園の周りを確認し遊具等危ないところがないか点検した。春はチューリップ夏は朝顔・ゴーヤのグリーンカーテンと季節の花々を感じられるようにした。</p>	A
食育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・食物の栽培 年少：ゴーヤ 年中：ナス・パプリカ・ピーマン・オクラ 年長：さつまいも ・植物の成長に目を向ける ・栄養士から食育指導を受ける ・野菜の皮むき・筋とり 	<p>芋ほり遠足に例年行っていた場所が、終業し、今年度より自園の畑にサツマイモを植えて収穫をすることにした。年中・年長がそれぞれ違う種類のサツマイモを植え世話をしたのだが、想像以上にたくさんのサツマイモを収穫することができ、全園児がお土産にもって帰ることができた。園児たちが育てた野菜や芋は給食の食材として調理してもらい、育てて食べる喜びを感じることができた。</p>	A
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の理解を深める ・該当児に対しての個別の配慮 ・医療・福祉などの関係機関との連携 ・家庭との連携 ・療育施設からの見学・共通認識 	<p>今年度は加配を必要とする園児が、多く、療育施設に通う園児も多かった。該当園児に対して、補助の職員を付けるとともに、支援を必要とする場面では、他の職員もクラスに入るなどして、園児だけでなく担任のサポートを厚くした。保育の中で疑問に思ったことは、療育施設の担当者に確認をとり、共通認識をもって同じ目標で保育を行った。</p>	A
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談の実施 ・未就園児親子登園の実施 ・子育て情報の提供 ・園や教職員による受入体制状況 	<p>今年度は例年に比べて月齢の低い子どもたちが多かったように思える。そのため、授乳やオムツ交換の場所が必要となり、声をかけられてから準備する場面等があった。未就園児親子登園（どれみクラブ）の日にあわせて園内見学を申し込んでくる親子が何組か見受けられたので、案内できる職員とどれみクラブの活動の方の職員とその日によって人数を変えて置いた。</p>	B
保健管理	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対応 ・家庭や医療機関等の連携 ・日常の健康観察、疾病予防 ・健康診断 ・事故等の緊急事態発生時の対応 ・職員の健康管理 	<p>手洗い・うがいの徹底、換気の徹底、園舎、遊具等の消毒の徹底に気を付けた。 学校薬剤師が定期的な検査を行い、園内の衛生管理を行った。 内科・歯科・耳鼻科。眼科の検診を実施した。 事故の大小にかかわらず、職員が緊急処置をとり、保護者へ連絡、医者へ連れていく等の対応をし、ヒヤリハットや事故報告等職員でよく話し合い、再発防止に努めた。 職員の健康診断の継続実施及びインフルエンザ予防接種の推奨・補助。</p>	A

安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアル等の見直し、確認、活用 ・安全点検、教職員の安全対応能力の向上 ・園バスの乗降車についての確認の徹底 ・不適切な保育の防止 	<p>あらゆる場面を想定して、避難・防犯訓練の実施。今年度は、各園児がばらばらに活動している時間に行い、担任だけでなく、一番近くにいた職員の指示に従う練習をした。</p> <p>園外の新潟市避難指定場所まで実際に避難した。</p> <p>危機管理マニュアル・フローチャートを教職員で読み合わせ、避難について話し合った。</p>	A
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・行事における保護者参加 ・行事における反省や改善 ・園だより、クラスだよりの発行 ・登園・降園時こどもの様子を伝える 	<p>月だより、クラスだよりの発行において、保育状況、園の考えを伝え、保護者と情報共有を図った。</p> <p>登園、降園時において常に玄関に保育者を配置、保護者と連絡をとりやすくし、連携を密にした。</p>	A

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

	理由
A	今年度は園の畑をたくさん使いサツマイモや夏野菜を植えた。草取りや水やりなど野菜の成長過程にも目を向け、さらに収穫してからも給食の食材に使うなどして自分たちが育てた野菜という気持ちを高めた。食育の面だけでなく、他学年と一緒に草とりや収穫するなど異年齢での活動の幅も広げられてよかった。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5.今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
年間指導計画など、昨年度行ったことを踏襲していることが多かったような気がする。昨年度達成できなかったことを、さらに考え良くしているのは良かったが、新しいチャレンジに関しては、少なかったように思える。	年長児は新たに小学校との連携の「かけはしプロジェクト」も始まるので、年間指導計画をみなおし、新しい取り組みをいくつか入れていきたい。小学校との連携、園での異年齢活動などいろんな人との関わりから学ぶ機会を増やしたい。

6.施設関係者評価委員会の意見

<p>安全管理の点で、大雪の時に駐車場前の道路の混雑を想定し、保護者に早めにメールで送迎時園の前の道路を一方通行でお願いした対応は、とてもよかったと思う。</p> <p>食育の充実の点で、園に畑があることで自分たちで様々な野菜を植え、育てて、食べることができるのは、こどもたちにとって良い経験になっていると思う。これからもぜひ続けていってほしい。</p>
